

## 今月のみことば 2024年7月

わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。  
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。  
(ヨハネの福音書4章14節)

### 心の「のど」、渴いていませんか

暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

ある調査によれば、昨年、熱中症で緊急搬送された方の数は、なんと4万人以上もおられたとのことで、驚きました。熱中症にならないよう、こまめな水分補給を心がけたいと思います。

ところで、聖書が書かれたヘブル語では、「のど」と「たましい」は同じ一つの言葉が用いられています。つまり、私たち人間の心は、「のど」と同じく、何かを飲まなければ渴いてしまう、というのです。

読者の皆さんは、心の「のど」が渴いた時、どうやってその渴きを満たしておられるでしょうか。ある人々は、「仕事」を生きがいにして打ち込みます。「娯楽」や「嗜好品」によって、心を落ち着ける方もおられます。「趣味」や「学問」に没頭することも一つの選択肢です。家族や友人との幸いな関係によって、心穏やかになる、ということもあるかもしれません。確かに、これらはすべて素晴らしいものです。

しかし、その中で、永続するものはあるでしょうか。本当の意味で、心の底から満たされるものを感じておられるでしょうか。このことについて、世界史の教科書にも載っている、アウグスティヌスという人物は、次のような文章を残しています。「主よ、あなたは私たちを、ご自身に向けてお造りになりました。ですから私たちの心は、あなたの内に憩うまで、安らぎを得ることができないのです」。聖書の神は、この世界すべてを造られた御方です。私たちも、神に造られた「作品」である以上、「作り手」である神の存在なくして、本当の安らぎはない、というのです。

あるとき、イエス・キリストが一人の女性と出会いました。彼女もまた、心の中に強い渴きをかかえ、生きていました。それまで5人の夫と別れ、人目を避けて行動していたのです。その女性に対して、イエス・キリストはこのように語りました。「わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」。ここでの「水」は、物理的な水ではありません。あなたの、心の「のど」を潤すものを、水にたとえて話されたのです。猛暑の中東において、水は大変貴重です。水がこんこんとあふれ流れる泉とは、なんと鮮やかな描写でしょうか。神のもとに憩うとき、私たちの心に、それが起こるのです。

今日も、イエス・キリストは「わたしのもとに来て、飲みなさい」と招いておられます。暑い日々の中、心という「のど」の水分補給についても、立ち止まって考えてみませんか。

長野キリスト集会では、7月7日(日)に「うるおい会」を企画しています。あなたを造られた、神様だけが与えることのできる「うるおい」について、ぜひ知っていただければ幸いです。(H)

